

ドル高是正、歴史は繰り返すか

ドル高が大きく修正される時には、世界経済が揺さぶられることになる。当然、日本経済にも大きな影響が及ぶ。こうした動きとして歴史に刻まれた時期が二つある。一つは1971年のニクソン・ショックであり、もう一つは85年のプラザ合意である。



伊藤元重の

エコノウオッチ

しばらく世界経済はこの固定相場制で順調に成長していたが、インフレなどの影響でドルレートは過大評価になっていった。そうした中で米国の貿易赤字が膨らみ、米国から金の流出も続いていた。こうした事態を解消するためには、高すぎるドルを是正することが必要だった。

米国の双子の赤字に懸念

後から振り返ってみれば、こうした為替レートの修正は好ましいものであった。70年代に起きた二度の石油ショックを吸収する上でも、円高へのシフトの恩恵は大きかった。

ただ、長期間にわたって360円レートに慣れていた産業界にとって、ニクソン・ショックの影響は大きかった。だからこそ「ショック」と呼ばれたのだろう。

ドル安への修正が世界経済を揺るがせたもう一つの事例が、85年のプラザ合意である。それまでの極端なドル高によって、米国経済は貿易赤字と財政赤字の「双子の赤字」に苦しんでいた。この状況を打開するため、

（東京大学名誉教授）

*この記事・写真は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。